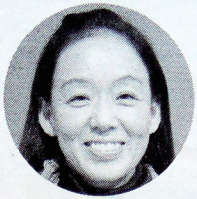
桐生出身の詩人 新井高子さん

「声のライブラリー」出演

日本近代文学館



新井高子さん

桐生出身の詩人、新井高子さんが東京・駒場の日本近代文学館で開催される「第82回声のライブラリー―自作朗読と座談会―」に出演する。9月12日午後2時～同4時、主催は同館。

新井さんは1966年生まれ。慶応義塾大学文学部を卒業、詩と批評の雑誌「ミて」編集人をつとめるほか、埼玉大学日本語教育センター准教授。第2詩集「タマシイ・ダンス」で小熊秀雄賞受賞。

第3詩集「ベットと織機」では、境野町で織物工場を経営する実家での原体験をもとに、働く女たちの生命力を上州弁の韻律に乗せて描き出した。また岩手県北上市の日本現代詩歌文学館との共同企画で、詩と東北弁を結びつけるワークショップを被災各地で展開した。

自作朗読は新井さんが「ベットと織機」「足だち」を、若松英輔さん（批評家、「三田文学」編集長）が「魂にふれる 大震災と、生きている死者」を。休憩後に、司会者の伊藤比呂美さん（詩人）を交えて座談会を行う。

高柳さんコンサート

バロックの愛の歌

来月2日煉瓦蔵で

桐生市出身のリュート奏者の高柳義生さんが出演する17世紀のイタリア音楽のコンサート「イタリア・バロック愛の歌『恋する人へのアドバイス』」が8月2日、桐生市本町二丁目の有鄰館煉瓦蔵で開かれる。

高柳さんは国立音楽大学声楽科を卒業し、東京で歌手として活動した後、1998年に渡英。帰国後は群馬県で古楽アンサンブル「コキリコ社」でリュート奏者、歌手として活躍